



学校の正門を入るとすぐ、ソテツの木が植えられています。このソテツの木にきれいな雄花が咲いています。ソテツの花は茎先に雌雄異株の大きな花を付けます。ソテツの雄花は円柱形で高さは30～70cm、雌花は直径50cmの大きなものです。ソテツの花は6月～8月にかけて開花するのですが、数年あるいは10年に1回程度しか咲きません。そんな、めったに見ることのできないソテツの花を見ることができたら、それは幸運の訪れを示すものと言われています。

幸運を予言するソテツの花

あなたは今、幸福ですか？いつも幸福な状況にある人はその状況を幸福とは思わないでしょう。不幸な状況を知るからこそ幸福な状況を認識できるからです。「幸福」が存在するためには「不幸」が必用であり、「不幸」が存在するためには「幸福」が必要なのです。どちらかだけが存在することはないのです。

今、コロナ禍の状況で不幸と感じていることがあるなら、幸福とはどんな状況のことなのか考えてみてください。なにげない日常が実はとても幸福な状況であることにきっと気づくでしょう。そして、不幸と思っていたことが実は幸福なことであったとさえ思えることがあるかもしれません。このことに気づけたなら、コロナウイルス感染症は悪いことばかりではなく、私たちに新しい視点を与えてくれた幸運と考えることもできます。

このように、ものの見方は決して一つではありません。ソテツのイメージも、株元に鉄を入れると元気になるため「金食い虫」として縁起が悪いとするネガティブなとらえ方と、室町時代や江戸時代の大名たちのように「お金もち」の象徴として屋敷に植えたというポジティブなイメージがあります。片方だけを見るのではなく、両方を見て、バランスのある考え方ができるようにしたいものです。

さて、米工のソテツの花はあなたにどんな幸運をもたらすのでしょうか？

良き夏休みになることを期待しています。



校長 松川 明義

今日は終業式です。米工 MAKERS も夏休みに入ります。次は2学期の始業式、8月30日(月)から再開します。暑さ対策とコロナウイルス感染症への対策を怠りなく今夏を乗り越えましょう。



長い夏休みが終わりました。わずか一月ほどの間に、東京オリンピック、パラリンピックなどの大きなイベント、数十年に一度と言われるほどの大きな天災、そして新型コロナウイルスはデルタ株が急速拡大するなど多くの出来事がありました。このような出来事をどう受け取りましたか？

2学期は置換力を磨こう！

夏休みには様々な体験ができましたか。私たちは体験を振り返ることで成長していきます。久しぶりに会う友達に成長した姿を感じることができましたか？輝くオーラを感じた友達には素敵な体験があったことでしょうか。

体験は成長に必要なことですが、限られた時間の中では限度があります。そこで重要になってくるのが置き換えて考える力です。

新型コロナウイルスに感染した方へのインタビューでは、「自分が罹るとは思っていなかった」、「これくらい大丈夫だろうと思っていた」という多くの声が報道されていました。

他の人の体験を自分事に置き換えてみるのが出来ていたなら、「自分も罹る可能性がある」、「わずかなことでも罹患する可能性はある」と考え、行動が変わり、感染者数も少なくなっていたでしょう。

目の前にある様々な情報は、自分事として置き換えてみたときに初めて自分の成長に繋がってくるのです。次はその気づきを行動に移すことです。

高校野球やインターハイ、オリンピックなどスポーツを観戦した人も多かったことと思います。最後の最後での逆転劇、メダリストの試合中の心境や練習での思いなど、様々な情報が流れていました。これを他人事として捉え、残念だったなとか、すごいなあ、と思っているだけではその情報は活かされることなく消えていきます。例えば、アスリートが活躍する情報をこのように置き換えてみてはどうでしょう。「今度の資格試験は最後まで気を抜かないで頑張らないといけないな。時間の使い方を見直して取り組み、試験の始まる直前まであきらめずに過去問で頑張ろう。」アスリートの体験をあなたのこととして置き換えた瞬間、目の前の情報はあなたの成長へと変化するのです。

輝くオーラの友達からは素敵な体験を紹介してもらい、自分事に置き換えて自分の成長に繋げてください。輝きの減った友達には、嫌な体験があったのかもしれませんが。声をかけてあげてください。そして、つらいこと、困ったことがあれば信用出来る大人に早く相談するようアドバイスをしてあげてください。

さあ、2学期は様々な体験や情報を「自分事」に置き換えて自分の成長に活かしてみましよう。



新幹線は走行時の騒音を低減させるために、静かに飛ぶフクロウの翼の構造をパンタグラフの構造に置き換えて解決しました

校長 松川 明義





米工 MAKERS

米工通信 第38号

令和3年9月1日

鳥取県立米子工業高等学校

建設科 山道俊哉

工業高校の吹奏楽部、みなさんはどのようなイメージを持たれるでしょうか？

本校では未経験者の生徒達を中心に、少ない人数ですが学校行事、各種コンサートや地域のイベントに出演するなど日々活動しています。



令和3年6月9日 鳥取県立梨花ホール 4部門音楽会

れると思っています。

日常生活でも同様に、まわりの意見をよく聴き、会社や家庭で自分の立場を理解することでまとまりがある職場や家庭になるのではないのでしょうか。

また、吹奏楽部では時間を守る、挨拶をする、まわりと協調して物事を進めるなどを基本として活動しています。高校生という多感な時期に吹奏楽部にかぎらず部活動で活動することは、とても有意義なことだと思います。

生徒が主役

学校祭や地域のイベントでは生徒達が司会をします。話すことが得意な生徒がすべて司会をすれば良いのですが、本校では皆に機会を与えています。また、曲の中でソロも上級生が全員で担当しています。

様々な経験を部員全員が積んで成長することによって、これから社会に出ていく生徒たちの貴重な財産となると思っています。

これからも本校吹奏楽部の応援よろしく御願いたします。

担当：吹奏楽部顧問・山道俊哉

高校では吹奏楽部でフルート、大学ではオーケストラ部でオーボエを担当。現在は吹奏楽一般バンドで活動しています。

心をあわす

吹奏楽部では技術の向上はもちろんですが、人間性の向上も目指して取り組んでいます。

合奏は全員で息を合わせるため一人でも違う音を出すといい曲になりません。

合奏中は一人ひとりがまわりの音をきちんと聞き、今自分は主役か、脇役の音なのか各自の立場を理解する必要があります。

全員でまとまりのある演奏になるように心がけながら音を出すことによっていい演奏が生ま





2学期が始まり1週間が経過しました。みなさん2学期のスタートは順調ですか？夏休みの疲労がたまり、生活リズムが崩れていませんか？今回は2学期のスタートにあたり、あらためて確認しておきたいことや行事について書きました。

2学期も頑張ろう!!

○1学期の学年集会で話をした内容です。再度確認しましょう。

□一人一人を認め合い、相手を尊重する言動を心がける

様々な思いや価値観があるので、自分の価値観を押しつけない

□決められたルールを守りながら、モラル、マナー、エチケットを身につける

スマホなどは電源OFFでかばんに入れておく、不適切な使用はしない

□基本的な生活習慣の確立（遅刻・欠席しない）

学期に理由なき遅刻3回で面談と反省文、4回以上で学期末に掃除の奉仕作業と反省文提出

（1学期に遅刻指導があった生徒が2学期も同じように遅刻した場合は奉仕作業の期間が増えます）

□5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を徹底する

自分の持ち物は整理・整頓し、みんなが気持ちよく教室を使えるようにする

□メモ帳を活用する

大切な内容はすぐにメモする習慣をつける

○2学期の行事について

2学期は多くの行事が予定されています。外部の方と関わる機会が多く、みなさんが直接やりとりをする場面もあります。普段の学校生活の中ではあまり感じることはありませんが、人と関わる時には多くのプロセスが存在します。

服装（身だしなみ）、挨拶（返事）、コミュニケーション能力、ルール・マナー、時間を守る、5S、報告・連絡・相談（ほうれんそう）、礼状（御礼）など、TPO【Time（時間）、Place（場所）、Occasion（場合）の頭文字をとった略語】に合わせた対応が必要です。社会に出ると、これらを当たり前にならなければならない必要がありますが、いざその場になるとなかなかできないものです。ではどうするのか？**頭で考えなくても身体が勝手に動くようになるまで普段の生活の中で練習する**しかありません。「**考えて動いているうちは理想的な自然な動きはできない。**」私が陸上競技の部活動の中でも生徒に言っていることです。学校生活の中にはこれらを練習するための学習や行事がたくさんあります。やるべきことをしっかりやっている人は、自然にそれができるようになり違和感がありません。

2学期は1年の中で最も長く、重要な期間です。当たり前のことを当たり前に取り組む生活を心がけ、自分の目標達成に向け頑張りましょう。2年団でみなさんを一生懸命サポートします。

2学期の主な行事

- ☆ 9月30日（木） 学校祭（文化発表）
- 10月1日（金） 学校祭（文化展示）
- 10月2日（土） 学校祭（体育祭）
- ☆10月26日（火） インターンシップ
- ☆実施日検討中 科ごとの日帰り旅行





今年の就職試験は例年どおり9月16日から始まります。3年生は応募書類を提出し、試験に向けてSPIの復習や面接練習に取り組んでいることでしょう。最後まで準備を頑張ってください。

きみと一緒に働きたい



就職試験に応募する前には、応募前職場見学会として、高校生が興味関心のある企業を訪問し、企業の様子を知った上で応募を決めています。就職してみたものの、イメージしていた状況とのギャップに意欲を失い離職することを防止するためにこの制度が始まりました。

応募前職場見学会に参加したみなさんはどのような視点で企業を見学しましたか？そして、数ある企業の中から応募先を決めた一番の理由は何でしたか？

見学をする際、自分の専門知識・技能を活かすことができそうで、自分の力を高められると共に社会貢献できるかという視点で見学したのではないのでしょうか？しかし、最もポイントを置いた決め手は、社員の皆様とうまくやっていけそうだ、社員の皆様と楽しく仕事に取り組めそうだというわくわくする感覚だったことと思います。

企業側ではどのような視点で採用の可否を決定されるのでしょうか。

以前、ある企業の方から工業高校出身の社員の評価について次のように教えていただきました。「明るくはきはきしていた工業高校以外の生徒を採用したが、そのような生徒は1年、2年で退職してしまい、最後まで残って頑張ってくれたのは、派手さこそないがコツコツと取り組む工業高校の卒業生だった。工業高校生の良さを改めて感じ、工業高校の生徒を採用することにしたよ。」

また、他の企業の方からは「工業高校の生徒はフットワークが軽くていいよ」と評価していただきました。工業高校では実習や課題研究でよく体を動かします。私たちにとって体を動かすのは当たり前になっているので「フットワークの軽さ」という意識は特にありませんが、企業の方に工業高校生の良さを理解していただいていることにうれしく思いました。

企業によって視点の違いはあることと思いますが、やはり、企業側も自分たちの仲間として皆さんと楽しく仕事ができるかという要素は重視していらっしゃるでしょう。

就職試験では、応募先の企業の皆様の仲間に加えていただけるよう、しっかりと自分自身の思いを

伝えてください。そのためには、先生方にどんどん面接練習を申し込み、皆さんの思いが誤解されることなく適切に企業の皆様に伝えられるようポイントを押さえ、伝え方を磨きましょう。

企業の皆様から、「きみと一緒に働きたいな」と言っていただけのことを期待しています。

校長 松川 明義

